



ゆみこの日記

小倉寺町会「認知症サポーター養成講座」



10月25日、小倉寺町会の「認知症サポーター養成講座」

座」を受講し、誰もがなり得る「認知症」について地域の皆さんと学習しました。お聞きしたお話の中で、印象に残ったことは、「認知症になっても心は生きていく」ということでした。「わかっていても、どうすることもできず、もがいている」ということを理解することが大事！ということです。こうしたことを私たちが理解して接することで、ご本人も自分も穏やかに過ごすことができるのだと思います。

社民党県連合

2024年新春旗開きに参加しました

1月27日、福島グリーンパレスで「社民党県連合・新春旗開き」が開かれ、社民党の自治体議員としてご挨拶しました。世界各地で紛争が勃発し、国内でも軍拡を叫ぶ声が強まる一方で、自民党の金権腐敗の実態がまたしても明らかになっています。こうした中、私たちのくらしがおざなりにされています。社民党の「がんこに平和！くらしが一番」のスローガンを胸に、今年も精一杯頑張る決意を新たにしました。

社民党福島県連合2024年新春旗開き第50回衆議院議員選挙勝利政策学習会



三浦ゆみこと歩む会

〒960-8142

福島市小倉寺字町畑 13

電話：(024) 563-1539

E-mail: miura.yumiko5.27@gmail.com

ぜひ、歩む会の
会員になって下さい



10月29日、小倉寺町会の秋祭りが行われました。子どもたちが山車を引いて元気に町をねり歩き、八幡神社に太鼓演奏が奉納されました。



福島市「手話まつり」に参加しました

11月23日、まちなか広場で第7回「福島市手話まつり」が開催されました。今回、私はやまびこ会の皆さんと手話コースに参加し、手話の素晴らしさ、楽しさを改めて体感することができました。テレビで話題の、手話ができるお猿さんにも会えて嬉しかったです！

社民党・福島市議会議員



三浦ゆみこと歩む会



AYUMU KAI News Letter No.2 2024年2月

2024

新たな年を迎えて

新しい年がスタートしたその日、夕方4時10分、スマホからけたたましい音が響きました。

1月1日に起こった能登半島地震は、福島に住む私たちにとって、東日本大震災を思いださせる、大変なできごとでした。

この度の震災に遭われた皆さまに、心からのお見舞いと、一日も早い生活復興を願ってやみません。

2024年は、新人議員の三浦由美子から脱却して、積極的に足を使いながら知識と経験を増やし、市民の皆さんの声を市政に繋げられるよう行動していきます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



はじめに、手話でごあいさつ
「こんにちは！三浦ゆみこです。ひとり会派ですので無所属となりますが、社民党所属の議員として質問させていただきます」



4つのテーマで質問しました
(裏面に「ダイジェスト版」を掲載しています)

くらしによりそう市政をめざして

12月議会で2度目の質問



三浦 ゆみこ

12月議会での質問は、二度目ということで、少しでも雰囲気慣れしてきました。一般質問では、市民の皆さんの関心が高い「デジタルクーポン(福デジくん)」や「西口駅前問題」について、具体的に質問を投げかけ、市の考えをうかがうことができたことは、成果として感じられました。また、9月議会での質問を改めて検証し、再質問をするなど、前回よりも一歩踏み出すことができたかな、と受けとめています。今後とも、「人によりそい、未来につなぐ」をモットーに市民の皆さまと一緒に、暮らしやすい福島市をめざして活動してまいります。

くらしの問題を中心に、12月議会で2度目の一般質問に立ちました

■ 質問項目 ■

1 デジタルクーポンについて

- (1) デジタルクーポン発行の事前予測について
- (2) サポートデスク対応の現状・その他について
- (3) デジタルクーポンの評価について

2 福島駅西口方面の利便性について

- (1) 福島駅西口周辺の在り方について
- (2) 福島駅・東口と西口の導線について
- (3) 西側の商業施設等の導線について

3 小規模修繕契約希望者登録制度の運用について

- (1) 小規模修繕の上限額を 50 万円から 130 万円に引き上げることにについて
- (2) 小規模修繕契約希望者登録制度の目的達成状況の評価と今後の課題について

4 ケアプラン、介護サービスの評価について



「みんなにエールを！」

デジタルクーポン（福デジくん）について

デジタルクーポン（福デジくん）は、スマホを持っていない人は最初から利用できない上、持っても操作が分かりにくく、購入を諦めてしまったという声も多く聞かれ、「誰一人取り残さない市政」という基本理念に反するのでは？との思いで、市の現状認識、評価について質問するとともに、「紙のクーポン発行」を要望してきました。

商工観光部長からは、サポートセンターの設置など対応策に努めてきたとする一方、年齢が高くなるほど購入率が低くなっている現状も認識しているとの答弁がありました。

また、木幡市長は、市民の声を反映した追加の支援策（選択型エールクーポン：下の図参照）を進める一方、デジタル化を浸透させていく施策の必要性についても強調されました。

福島市選択型エールクーポン

長らく物価高に直面する市民生活の支援と、地域経済の下支えを図るため、エールクーポンを発行します。購入不要の紙のクーポンか、デジタルクーポン「福デジくん」を選べます。

対 象 者	福島市に住民登録のある方 約269,000人 ※基準日を今後設定				
内 容	約1500店の市内加盟事業者で利用できるクーポンの発行 ■ 世帯単位で以下のいずれかを選んで利用できます 値引き型クーポン（紙）（申込不要） ・ 1人につき1,500円分（500円券×3枚） デジタルクーポン「福デジくん」（申込必要） ・ 5,000円 で 6,500円分 ・ 10,000円 で 12,500円分 どちらかを1人につき1回購入できます				
利 用 期 間	令和6年3月1日～5月31日（予定）				
	R6年1月	2月	3月	4月	5月
案内送付	■		◇ 値引き型クーポン送付		
Web申込		◆	シリアルナンバー送付		
			クーポン利用期間		

補正額：710,000千円



まちなかの賑わいを消さないために

駅西口・東口の一体的な利便の検討を

5月にイトーヨーカ堂の閉店が決まり、西口がいよいよ寂しくなるのでは、との懸念から、跡地の活用について質問しました。

これについて、木幡市長から「中心市街地の重要な核となる場所であり、将来にわたる中心部のまちづくりを進める観点から、市としても活用のあり方について積極的に関わっていく」との答弁がありました。

また、福島駅東口と西口の導線について、現在の東西連絡通路（地下道）は、階段の上り下りの負担や暗さで実際の距離より遠く感じることから敬遠されがちであることを踏まえ、仙台駅のような明るい場所を通して移動できないか、ヨーカ堂の撤退で不便になる駅西口から西道路の商業地区に循環バスを運行できないか、2点について質問しました。

これについては都市生活部長より、「新たな東西自由通路」についてはJR東日本と協議を進めているところであること、駅西側のバス運行については、利用把握や社会実験の必要性を路線バス事業者と協議し、日常生活に支障をきたさないよう地域の足の確保に努めるとの回答がありました。



5月閉店が決まったイトーヨーカ堂

働く人のくらしを守り、地域の活性化を

小規模修繕契約について、福島市は上限が50万円であるのに対し「上限額130万円」とする自治体が多数あること、適用範囲の違いなど、他の自治体を例に出しながら、こうした違いについて質問し、これに対し財務部長から各自治体における制度目的による違いであるとの回答がありました。

インボイス制度も始まり、業績が悪化しつつある「一人親方」という立場の小規模事業者の皆さんをどう後押しできるのか検討しながら、今後ともこの問題に取り組んでいきたいと思っています。

ケアプラン・介護サービスの評価について

策定の取り組みが進められている「福島市高齢者福祉計画・福島市介護保険事業計画2024」に、市内にある22の地域包括支援センター、90の居宅介護支援センターの経験と知見を反映させていくお考えはあるかどうか質問しました。

これに対し、健康福祉部長より、「情報の共有の必要性を認識しているとの回答と、併せて既存の組織である福島市介護支援専門員連絡協議会などと情報共有のあり方について検討していくとの回答がありました。

▶昨年11月から「市民の生活を応援する」との目的で実施されたデジタルクーポンですが、当初、「デジタルだけ」で始まったため、市民の皆さまから「これではデジタル操作ができる人しか受けられない」との戸惑いの声がたくさん聞かれました。市当局の回答は「ほとんどの人がスマホを持っている」、「持っていない人は誰かに頼んで」、「それでもダメならサービスカウンターで聞いて」とのことで、行政と市民の目線に大きな隔たりを感じずにはいられていませんでした。それで、今回「誰もが戸惑いなく使える紙のエールクーポンに戻してほしい」と発言しました。そのときの答弁は「世の中みんなデジタル化だから無理です」とのことでしたが、その後、3月から追加支援策として紙のクーポンかデジタルクーポン（福デジくん）を選択できる「福島市選択型エールクーポン」が実施されることになりました。今後とも市民の声を市政につなぎ、「誰一人、取り残さない市政」をめざして積極的に発言していきたいと思っています。

▶令和6年4月に、いよいよ本県初の公立夜間中学が開校されることになりました。小学校、中学校の卒業を目的とする方、車いすの方、外国の方から応募があり、10代から70代まで17の方が入学する予定です。市の説明では、ネット環境を整備し、公立の昼間の中学校と同様に一人一台のタブレット配布すること、教員は高い志を持った方を県内公募で募り、指導体制の充実を図っていくこと、個別のニーズに合った学習の充実を検討していくとのこと。学習環境の整備に力を入れていく姿勢は伺えるものの「小学校や中学校の指導用教科書を用意してほしい」との陳情が否決されたことには、正直驚きました。一人ひとりが多様な環境や思いを持って入学されることを思えば、多様なニーズに応える体制づくりの一環として必要なものはできる限り用意するべきだと思います。さまざまな意見に丁寧に耳を傾け、入学して良かったと思える親身な対応をお願いしたいと思います。